

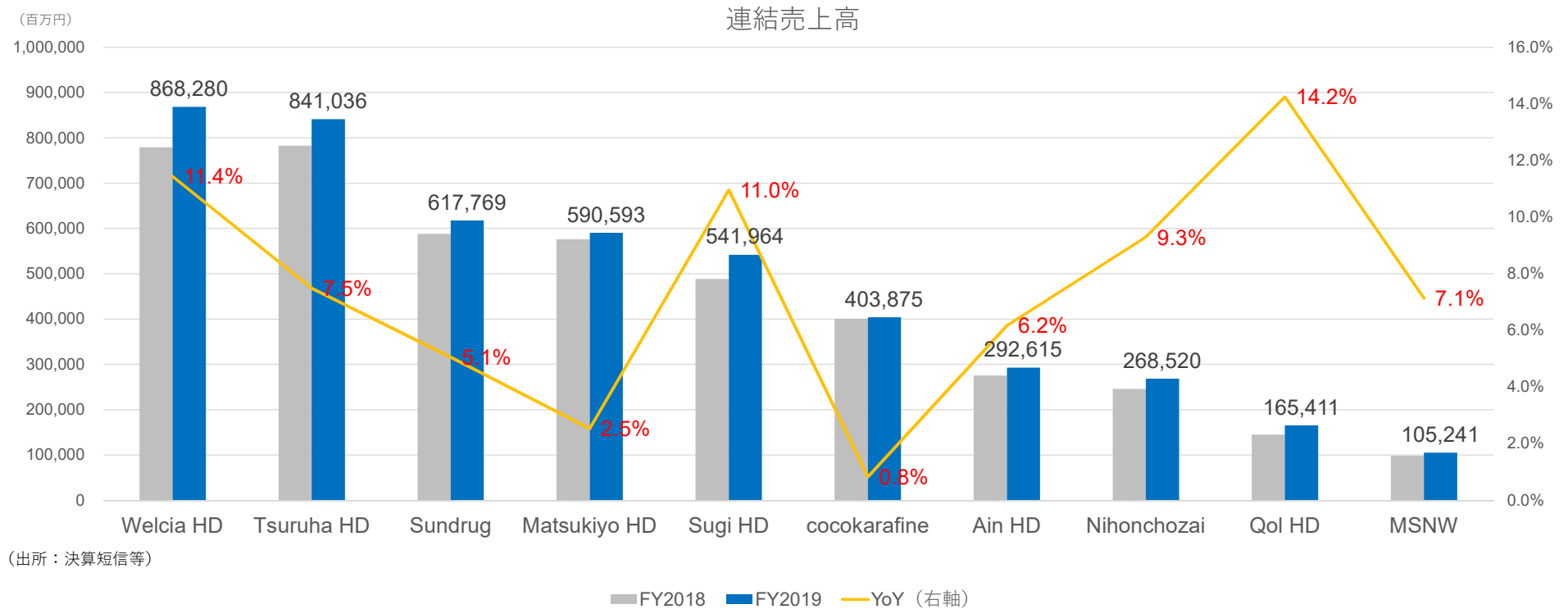


# Pharmacy report

FY2019 決算等から市場を分析する

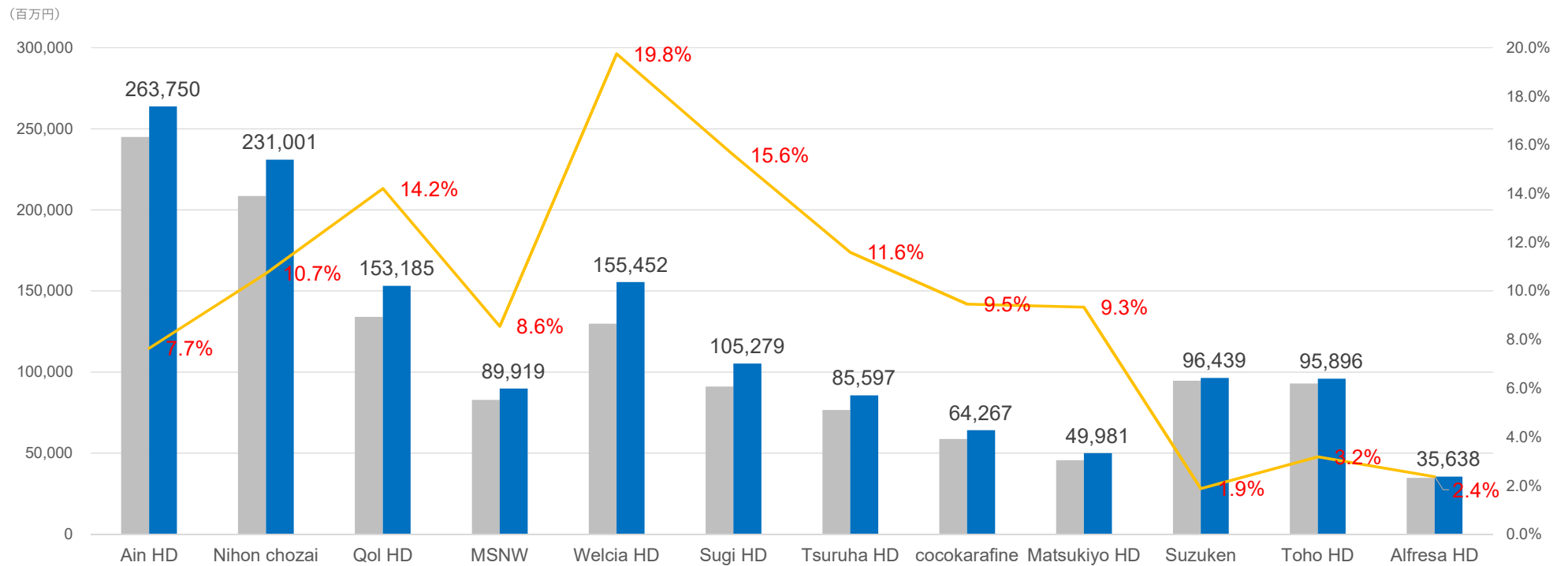
テトラコンサルティング株式会社

# ドラッグストア、調剤専門各社の連結売上高



# FY2019 上場企業の調剤事業売上高

調剤事業比較



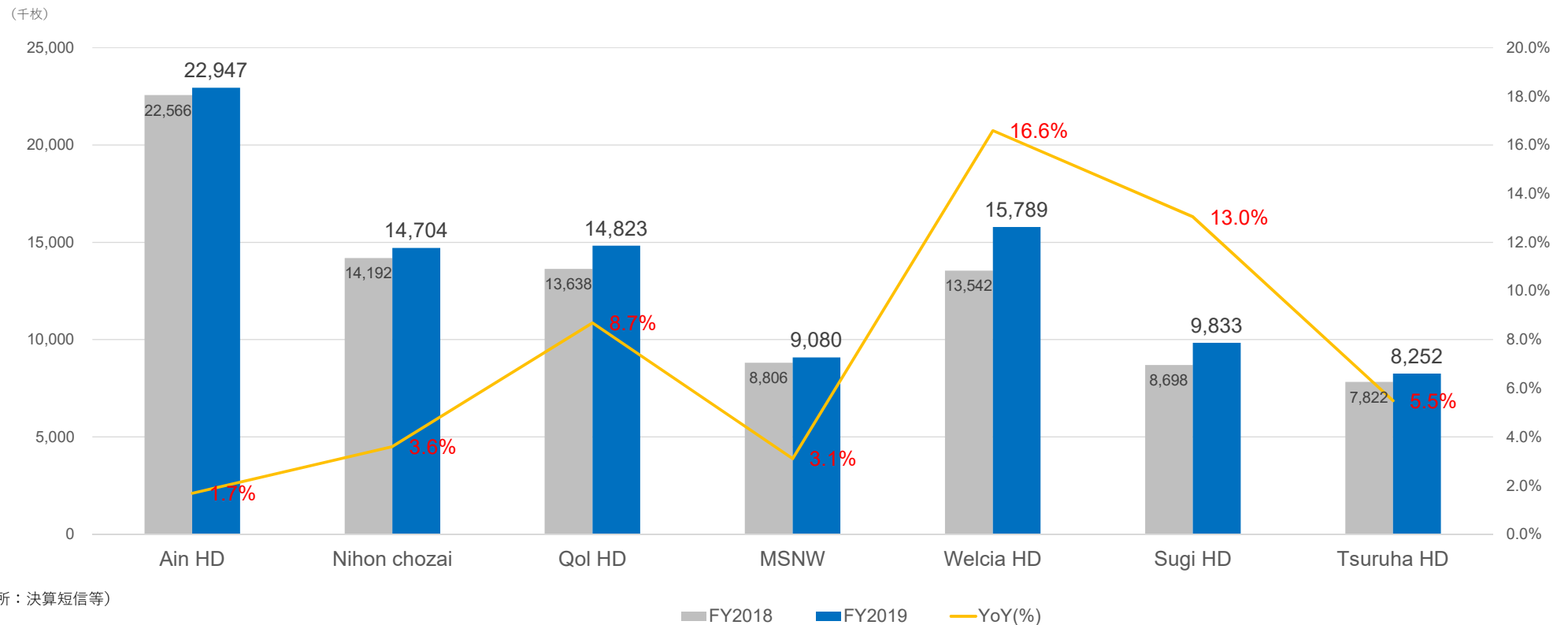
(出所：決算短信等)

■ FY2018 ■ FY2019 — YoY(%)

- Welcia HDの伸びが顕著
- 卸傘下の薬局事業は、伸びが低迷した状況が続いている。

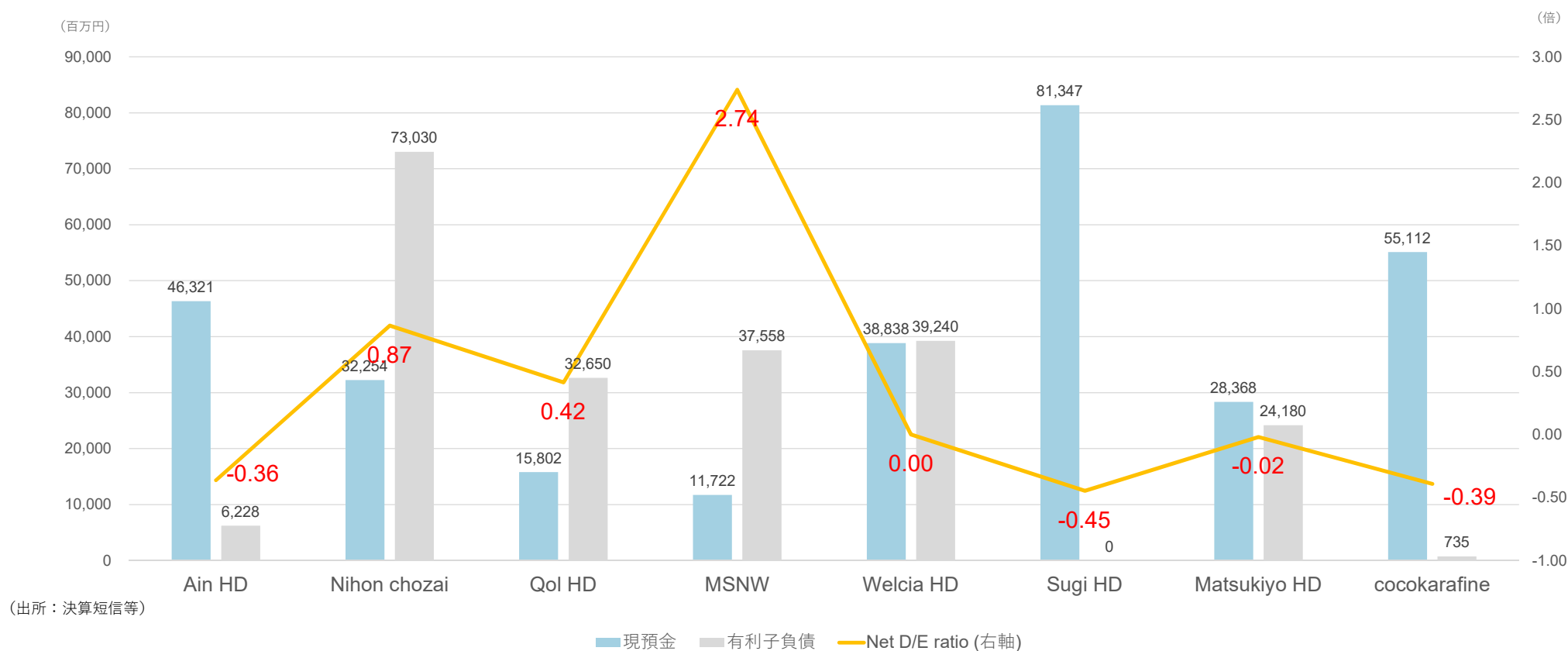
# FY2019 上場企業の処方箋応需枚数

処方箋応需枚数比較



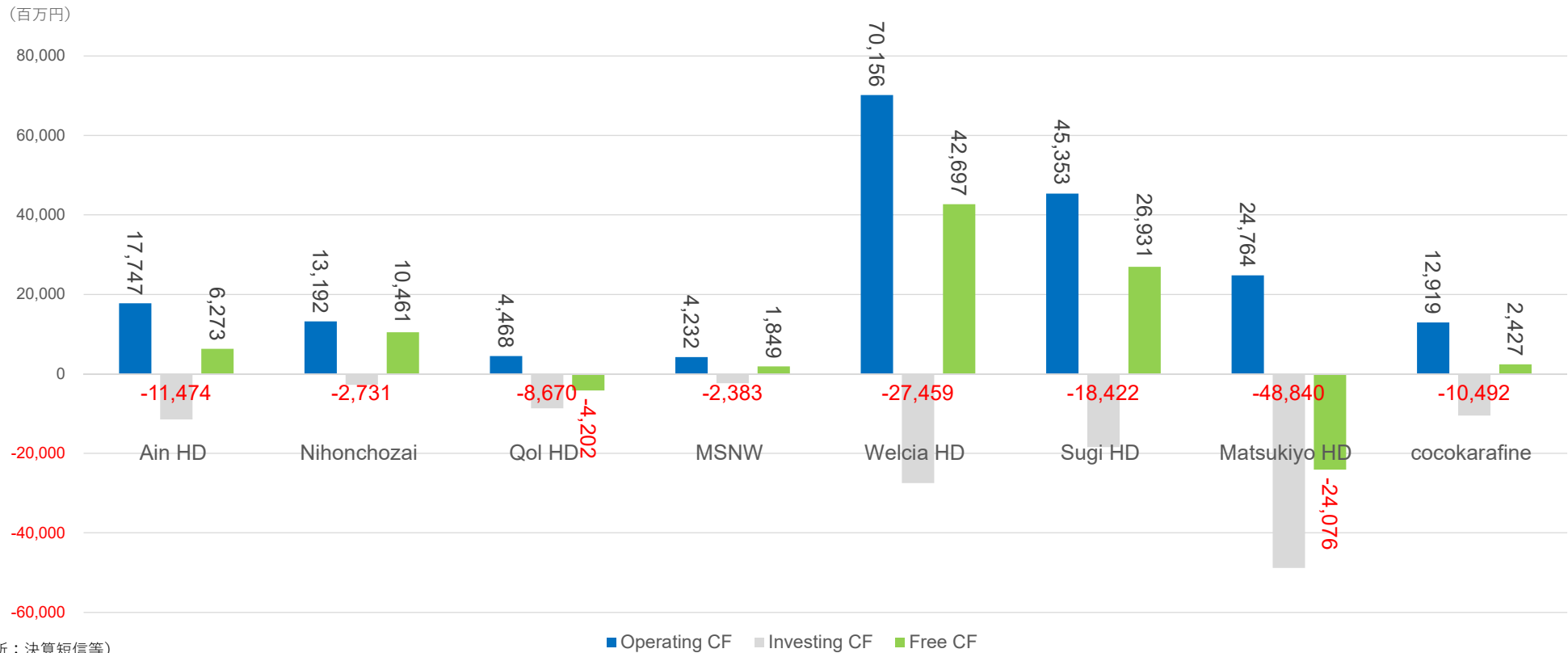
- Welcia HDの伸びが顕著、重要な指標のひとつである処方箋応需枚数は、15,789千枚となり日本調剤（14,704千枚）を抜き、2位に躍進した。

## FY2019 Net D/E ratio



- ココカラファインの現預金551億円のうち、383億円はマツキヨHDに対し第三者割当増資にて調達。
- 日本調剤は、有利子負債額は多いがトップが交代し徐々にBSが改善しつつある。

# FY2019 FCF 比較



(出所：決算短信等)

- DgSの稼働力が顕著。
- アインHDは、FY2018にM&Aによる投資が増加しFCFが赤字となったが、一転FY2019は投資を控えFCFが改善した。
- 日本調剤は、M&Aによる支出が増加したが有形固定資産の売却により、投資額を抑えることとなった。
- クオールHD、マツキヨHDのFCFマイナス要因は、GE企業の買収やココカラファインの株式取得による支出。
- ウェルシアHDは、積極的な新規出店やM&Aにより投資が増加傾向。
- ココカラファインは、積極的なIT投資（店舗の効率化、売上高人件費率の減少）により、FCFが伸び悩む。